

新刊案内



『しずくと祈り「人影の石」の真実』		
朽木 祥/作	小学館	T/クシ
『ぼくたちの卒業写真』		
天川 栄人/作	文研出版	T/テエ
『弱いから、私は強い』		
CONOMI/著	KADOKAWA	T007/コノ
『いっぱいいっぱいの自分から脱出する方法 今を生きる10代のための40のヒント』		
内田 和俊/著	KADOKAWA	T159/ウカ
『刀剣乱舞トラベラーズガイド 全国版』		
	昭文社	T291/トウ
『人種は愉快的ジグソーパズル』		
小手鞠 るい/著	河出書房新社	T316/コル
『地球変動の犯人を追って、科学者、海にもぐる!』		
佐野 貴司/著	河出書房新社	T455/サタ
『はごろもフーズってどんな会社? 食卓を支える!シーチキン大研究』		
宮原 美香/絵	Gakken	T588/ハコ
『1週間2000円ひとり暮らしごはん』		
Hana/著	ナツメ社	T596/ハナ
『うちのうさぎは今日ものんびり』		
赤血球/著	KADOKAWA	T645/セツ
『13歳からのディベートスキル ロジカルな考え方・話し方が身につく本』		
名和田 竜/著	メイツユニバーサルコンテンツ	T809/ナリ
『ファイティング・チャンス』		
ルイーザ リード/作	岩波書店	T F /リル



ティーンズのココロ通信

令和7年12月1日 発行

Eメール : info@lib-yama.jp

HP : <https://www.lib-yama.jp>

山口市立中央図書館

264 号

〒753-0075 山口市中園町7-7

TEL : 083-901-1040

FAX : 083-901-1144



家族



今月のテーマは「家族」です。

今年もあとわずかとなりました。みなさんにとってどんな1年でしたか。

今月は『家族』というテーマでおすすめの本を紹介していきます。忙しい年末の合間に読書でリラックスしませんか？



●『ピアノをきかせて』

小俣 麦穂／著

講談社

T／オム

小学 5 年生の響音は音楽を聞くのが大好き。中でもお姉ちゃんのピアノが気に入ります。ところが、最近はお姉ちゃんの演奏を聞いてもワクワクしなくなりました。コンクールの成績もあまり良くなかったみたいで、お母さんとお父さんはそのことでギクシャクしてしまっています。そんな中、響音は音楽劇に出演することになりました。作品を家族みんなに届けたい一心で、一生懸命練習を重ねます。響音の思いは無事に届くのでしょうか。
(S. E)

●『アンマーとぼくら』

有川 浩／著

講談社

／アヒ

アンマーとは沖縄の言葉で、おかあさんの意味。32 歳のリョウは母晴子に会うため、久々に沖縄へ帰省します。思い出の場所を巡るうちに、少年の頃の自分や今は亡き父に邂逅するという不思議な体験をするリョウ。そして母と過ごす 3 日間が終わりを迎えるその時…。

青年サトルと猫ナナの旅の記録『旅猫リポート』や、『アンマーとぼくら』『旅猫リポート』の外伝が収録された『みとりねこ』もおすすめ。なお 2019 年 2 月より著者名表記が「有川ひろ」となっています。
(R. S)

●『ファミリーマップ』

おおぎやなぎ ちか／作

文研出版

T／オチ

父親と二人暮らしの中学生の陸。突然、父親が再婚する話を聞かされる。しかも、再婚相手は妊娠しているという。動揺する陸は、小さいころから面倒を見てくれている父親の友達のよっちゃんに相談する。よっちゃんは先祖が上にいる家系図ではなく、木のように先祖から子孫が空へ伸びていく「ファミリーツリー」の話をして、血のつながりだけでなく人それぞれに家族の形があるんだよと話す。家族や友達との人間関係に悩みながらもよっちゃんに背を押され、歩き出す陸の姿を描く。
(T. O)

●『美雨 13 歳のしあわせレシピ』

しめの ゆき／著

ポプラ社

T／シユ

中 1 の 6 月。美雨はクラスの友達のことと悩んでいました。グループの他の子達は目立つ方で、美雨は大人しい方。本当にこのグループにいていいのかな、と不安を抱えていました。ある日、学校が終わって家に帰ると、とても美味しそうな匂いがします。お母さんは料理が苦手なのに、なんで？と台所を覗くと、そこでは料理なんてしたことないはずの仕事人間のお父さんが肉じゃがを作っていました。しかもお母さんは家出したらしくて…！？
(S. E)

●『戸村飯店青春 100 連発』

瀬尾 まいこ／作

理論社

T／セマ

大阪の中華料理店の 2 人息子、長男ヘイスケと次男コウスケ。単純明快な弟からはクールで要領の良い兄に見えますが、第 2 章で兄視点になると実は案外不器用なことが分かります。新たな居場所を求めて高校卒業後東京で暮らし始めたヘイスケと、3 年生になり高校最後の 1 年を全力で過ごすコウスケが、それぞれの環境で色々な人と関わりながら自分のこれからについて考え悩む姿はまさに青春そのもの。合唱祭の歌やラジオの曲といった本作に出てくる音楽も、場面を盛り上げてくれます。
(R. S)

●『いつかあなたをわすれても』

桜木 紫乃／文

集英社

T726／サシ

さとちゃんはママのおかあさん。認知症でママのことも忘れ、少しずつこれまでのことを忘れていっている。ママは少しずつおかあさんとの思い出の荷造りをする。ママもわたしを忘れる日がくるかもしれないけど、きっと大丈夫。さとちゃんからママへ、ママからわたしへ、家族と向き合う優しいお話。同じ著者の小説『家族じまい』のもう一つの物語。
(T. O)